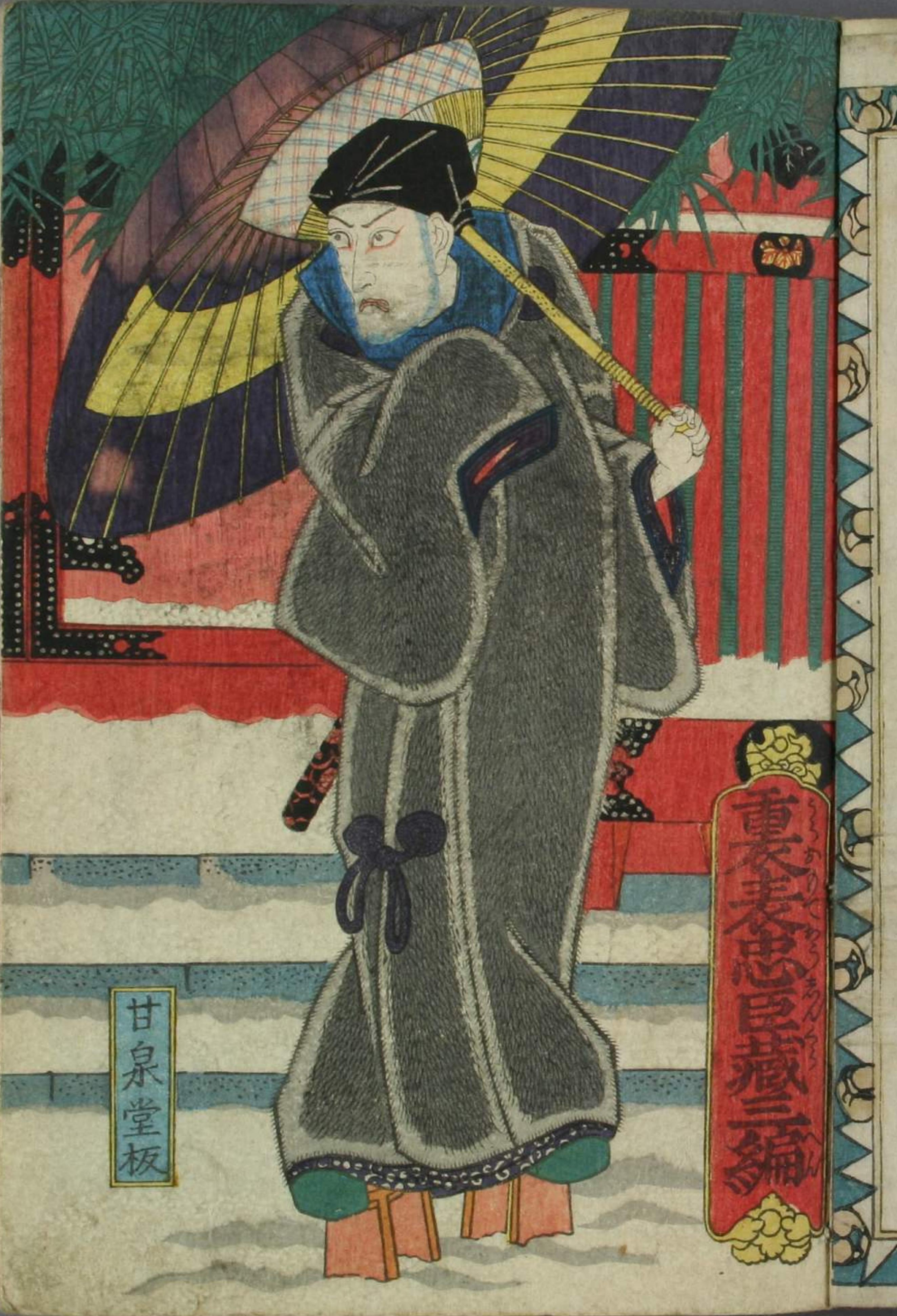


Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 JAPAN Tama



2773
2

忠臣蔵三編上巻

丁酉春新版

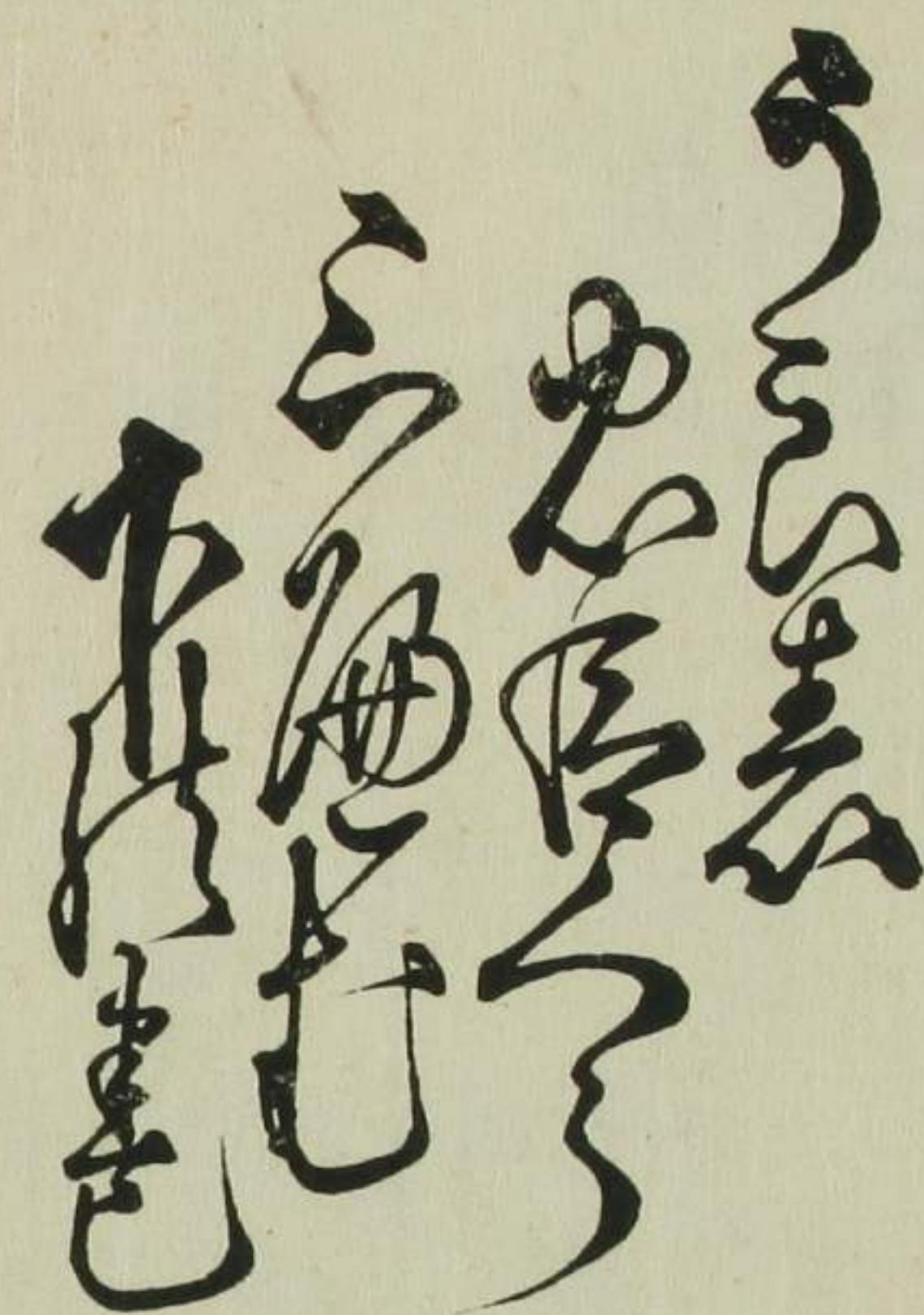
市川白猿作

香蝶樓國貞画

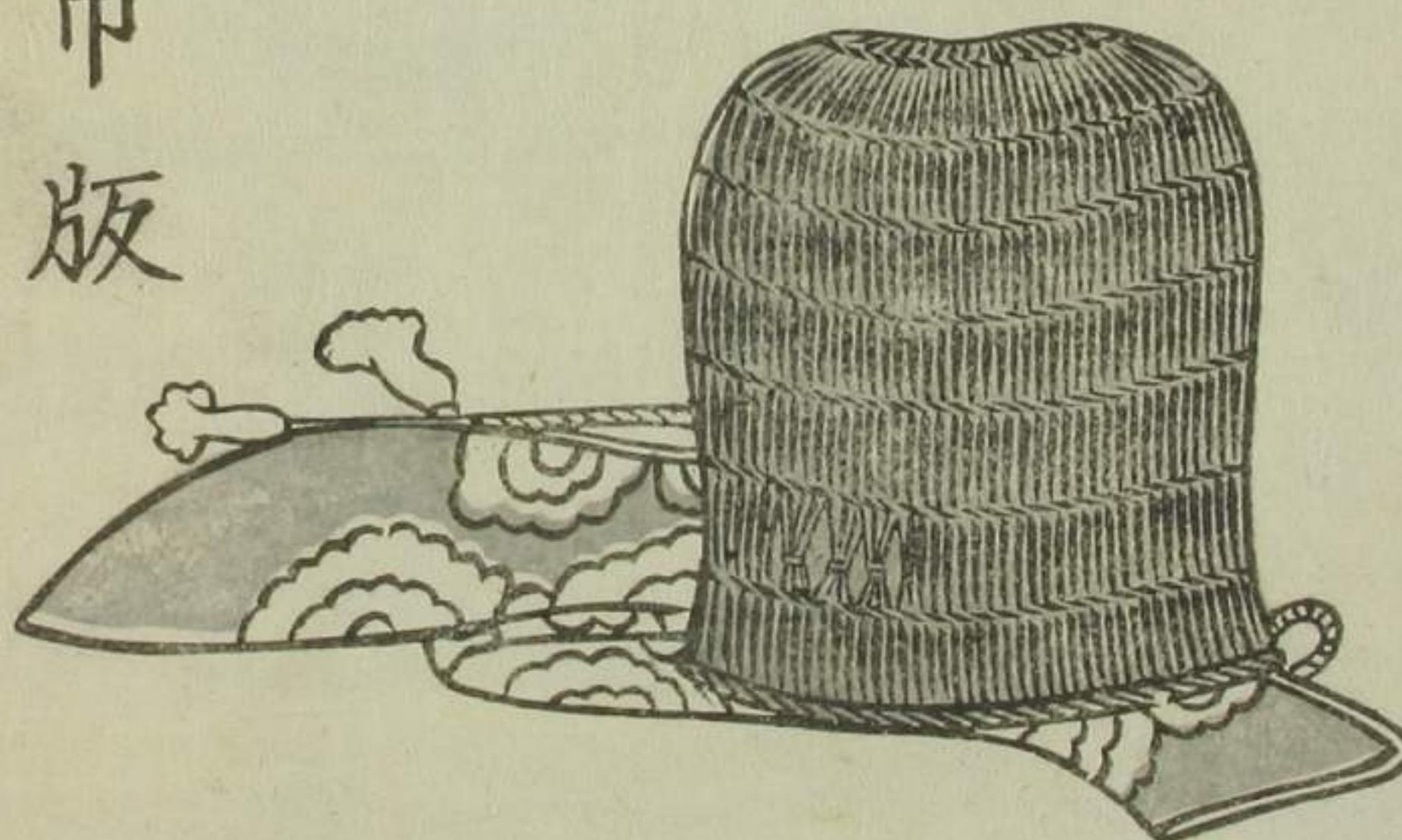
甘泉堂梓



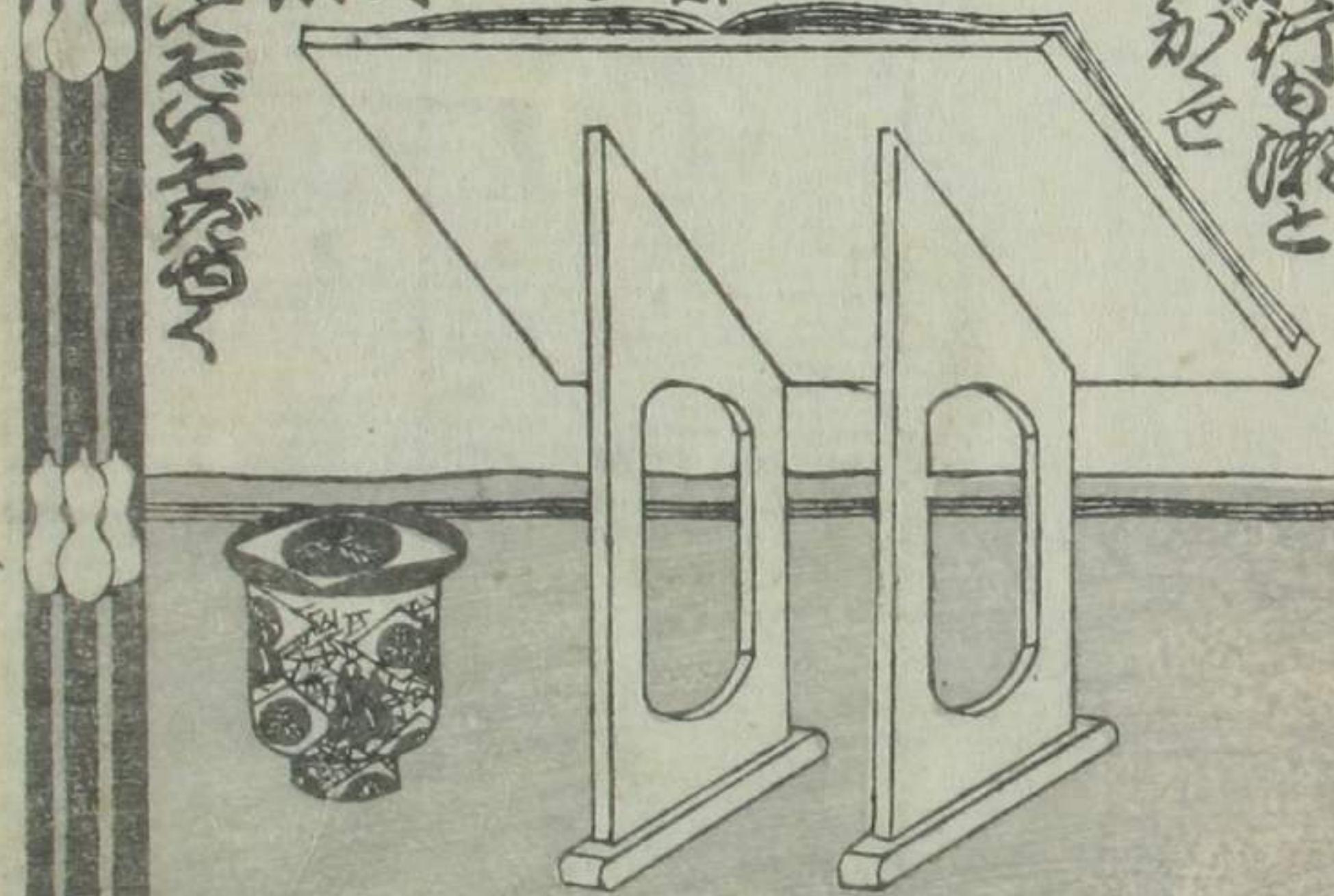
白 狼
作 画



泉市版



六段目道行





裏表忠臣蔵



吉永元尾作



川井の裏大日ハ同之段

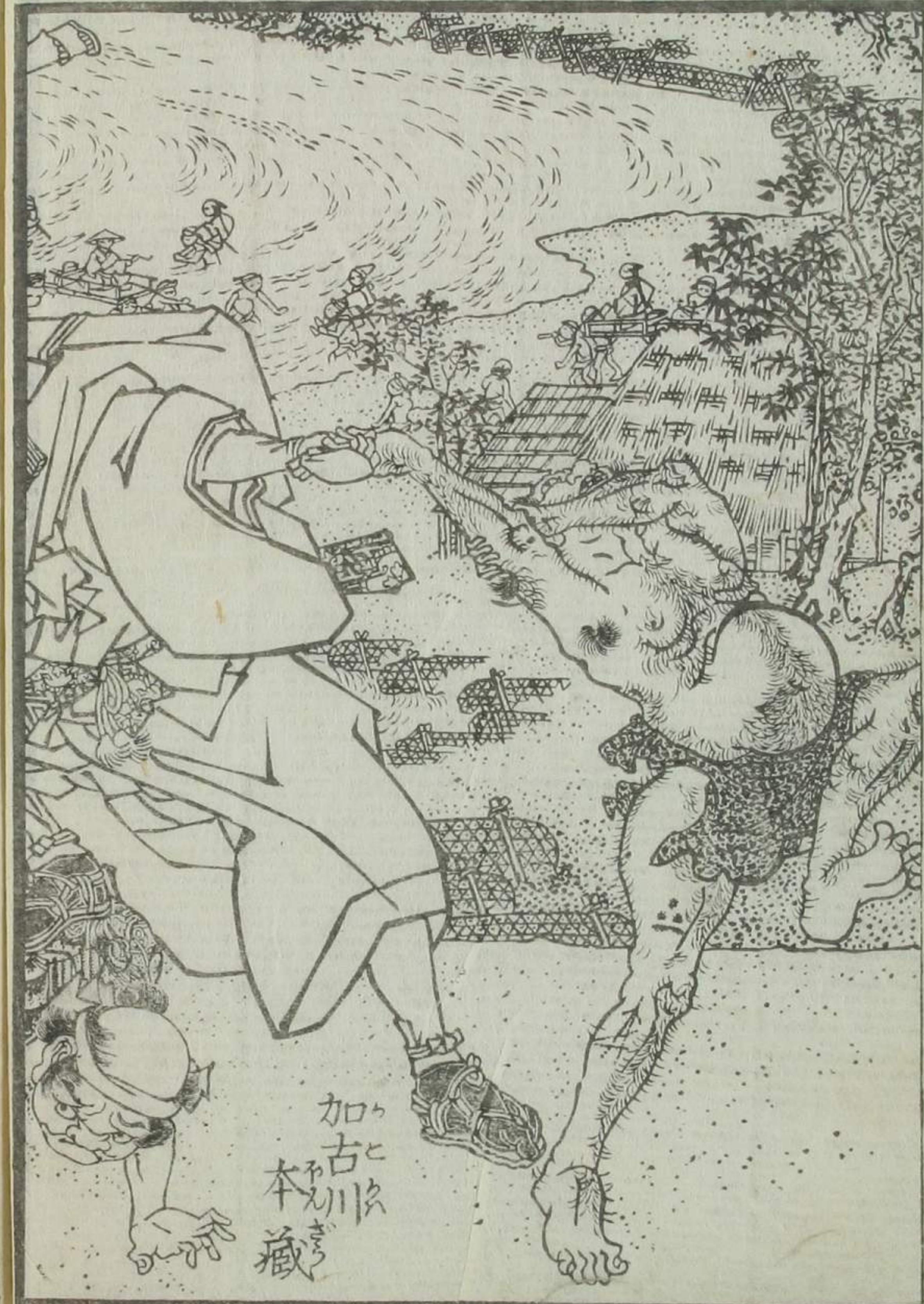
場の



眞木山

四

加古川本藏



眞木山

三

同八段目





九段目の口

九段目

九段目 由良のかみみやこ山あらふりこものしかくれ家へなげむと人あらへ加古川
をもあが女わうとあせゆすみ小室とおりとあへむとの力ぬがあれせんと
あるくあひてとくまろ門にふすなりたのまませうとひふとあめくよりそんではるトあ
まえれづくとあうとそあがすまれあくとひだと尋ねてこじかと川がよきうる
とあせをゆきりまするするするみそのちあくえすとが自ふかりませぬ中ひのひあ
くきうやうえられて下せへハイカくまうきことくへちをやくかどおの氣
とをあせうあくせふのうのかたまえもあもゆう候まうりゆすゆくとがどのうちよりともりうる
むすみの小室フリヤく候まうりへあまうくもくとてよろろうとみあくかこくまも居る
安ホ内みつれてはらのみ女がうあむうひとれづくとあせさあふあるぐとあれ上京今
れをあうちまくせんのみか他に他にさうきうむすめとあれまされでちのち
やまとともあれてあるむご力ふのよあ入りとぞんますととりえとまえありうかるの
あしやるとあむとあそせむすめとあひとじやくありへそれとまくせゆあそれ
ちうぢらめつけざるひごととをそひうめゆうくちんづんざあの代ざうり呑今そん
らう人の身のうへたくとともすくは義ひりととあひらすれとまくせとあらふれてまんと
へんととをくふうらへとあれしてあひじもとあくとめをやるよのあひへこくくまくうう
ひそむきせやまきう歴をんぐえきのあうみのとれがまくのとくとせがまくのと
かあやつどんじんちうせのうゑふゆくけのとくの財よがおどのがまくをうれとあひうう
で歎きあへきくじせら。かくそんじまくがまくのむとよかるまくのうけらののみとと力ふ
つるやのうれすめとひすとくへへられ母とねすめあとんあうりあれてとそくうつる
小室みくにりかきをあ母よむひてせうくちひあられて力ふさゆもとたゞとまくらひ
ゆまきとうがつうのあと母さゆぞこじとこじて下せまくとくがくまくをどや

至うやドヤさんとよどみの川河口あらうまほすのそきの森びつゝがこぼれて今もまかうると
刀をとぬくとしもむしの門とこもそうのえへまをひきてみたてこれ娘をせんじゆうう
ありしめどもそうのとへつのまことのとくえでさくまと娘母うみかくわちもとくまむくえ
かくじよふりとめうるをえあよりちいしきに妻とくもとあよアハのふあうきの
あくよら白木のえかうづきスやそむこのか浦はあらばんをあらかまのまなみの
あくようひばるのせとめぐらとひをとくせんやんが年そりや年をびざります。あまのむと
か川をあらどめ歴さめうどめ、れんやそとめのとびたとある
たうさのふきくはせやくものうみや(始)の小をせぢれ力ふやあせされまくとまくとまくとまくと
てのともそうちきぬすれがか川をあらとせ小波がおどりてエモぐくとシスあるが義人あ
あむひかひのふくわくとむご力ふうだうとりやもあんとうがひとあまたがくじあまく
あらわくらむくゆとくゆとくゆみえふらうじぐくあく力強とんでぬくほのゆりとめくもとが義人
をくらうとくらうむくらうのゆ、一間おきぐくとむく一くらひぬが義とめくらうとが
でくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうと
をじて娘小をあむこ力強そそせそやうそくぎれとゆせあれとゆせそくのまきをはくらうとく
ふれて小をえがひねさくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうと
そそくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうと
かくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうと
ぞうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとく
がむけの内からせられ力ふくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとく
あらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとく
のうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらうとく



十段目



義平
一子
松

義平
丁雅
伊吾



忠臣蔵

太田
了翁作

白猿作
國貞画

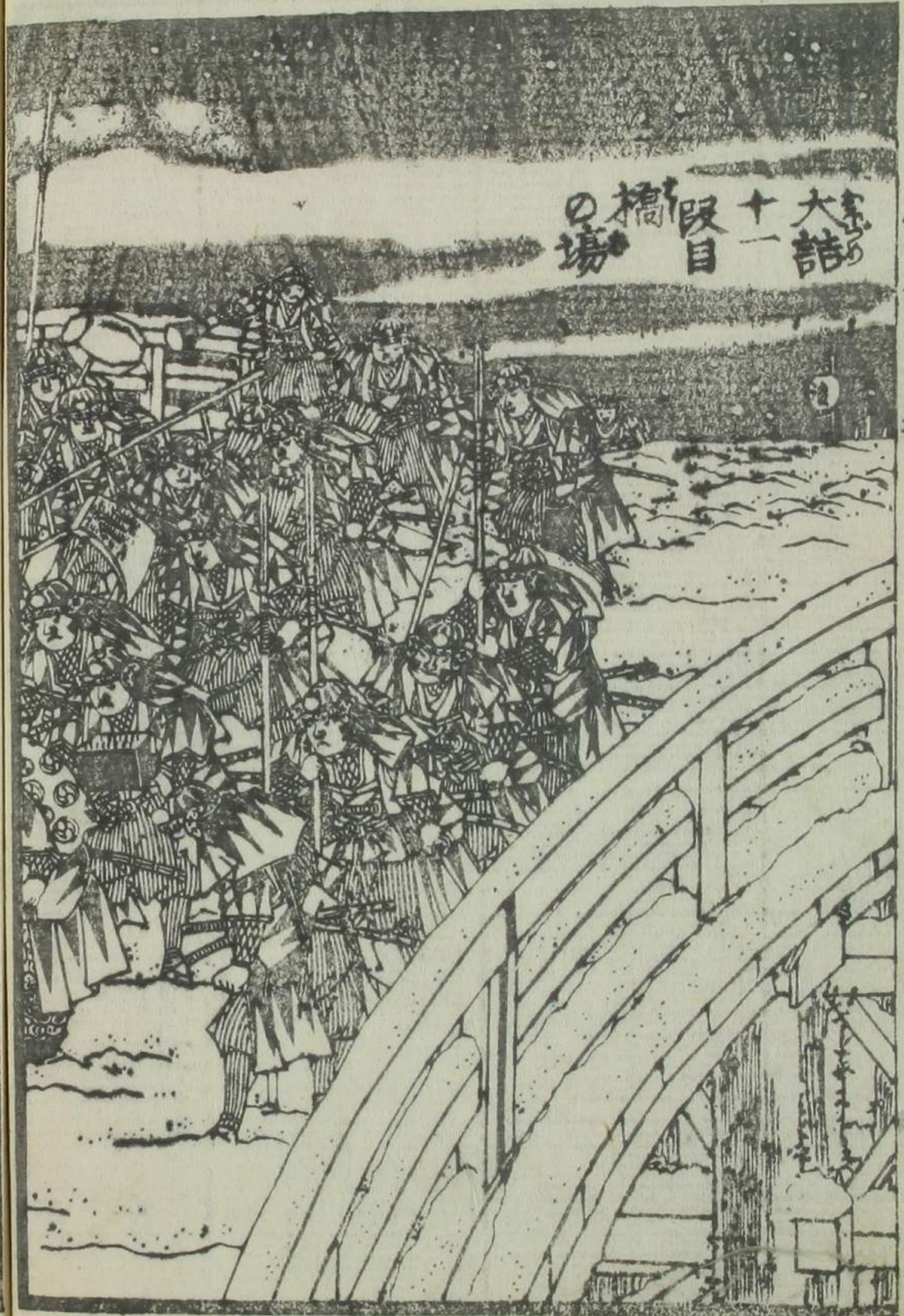




上冊の語き ちそのどおき キリカミとどうがへそておかへヤスハシキ書のちあま法門ひりな
カミのよりふれりのひともあります かのそそのきのうものひも百日あめりマヘく
大のうしも百日ときをそのとえこそみらへきもあれや そもそのどおひやそらそものまえれ
内院といへを興へよろびだん あひがとをせなうよろびらへ目をくわゆ
立とまくめふ大星ちどめみるくもイサカアロク人出をとひふとひくもゆきのすけ
あひふくたる帳面をもそ義平ふらももひコレく義平どのそそんの家若ち元川
やまくふ縫うものうけことば天とうけあ元川とこそ義平の義の字へ義あらの義の字
平ひたひうちたやまくやんのうひきあひくびと法士ありとも門にへ出かれば義平
を法士をあひてせんりうたうせうへかきくぐあひくとりかたよりとラモの附
とそんきくそくあひくせやまんとひまくまんでかぬくうさうと歩くやく

十一段目 あひかくもじをひがやの大名や一きの門トをるべぐ その中ふも
の中のこちゅまへあひりふそりまへせんへ考るものうりひゑあるがゆくもあん
やの後人たる跡吾へかたのやまきあんきのをやまくもんね又ひくゑのあひどもふ
えもとむきせんそくあふ町人とすゞとやくともナキ竹やまくを竹や竹
とうあく又むくふよりくる人のこれへ際せの風流人をまくの附キ角かくを不意地
の月のかさやとゆをえでまうんと來かるわもととかやくありせたゞひがある
人あひくとく友ともキ角の源ゑぢうすぐとやそそドひく大もとまつた人するう
とりがまくふ迷もキ角とやくや多ふたうと井家通るうひうのうふとあひ
あひとキ角のすくをやるうるも定寄りうるもあひんの日付竹をうじゆく

十一段目



東坡志林

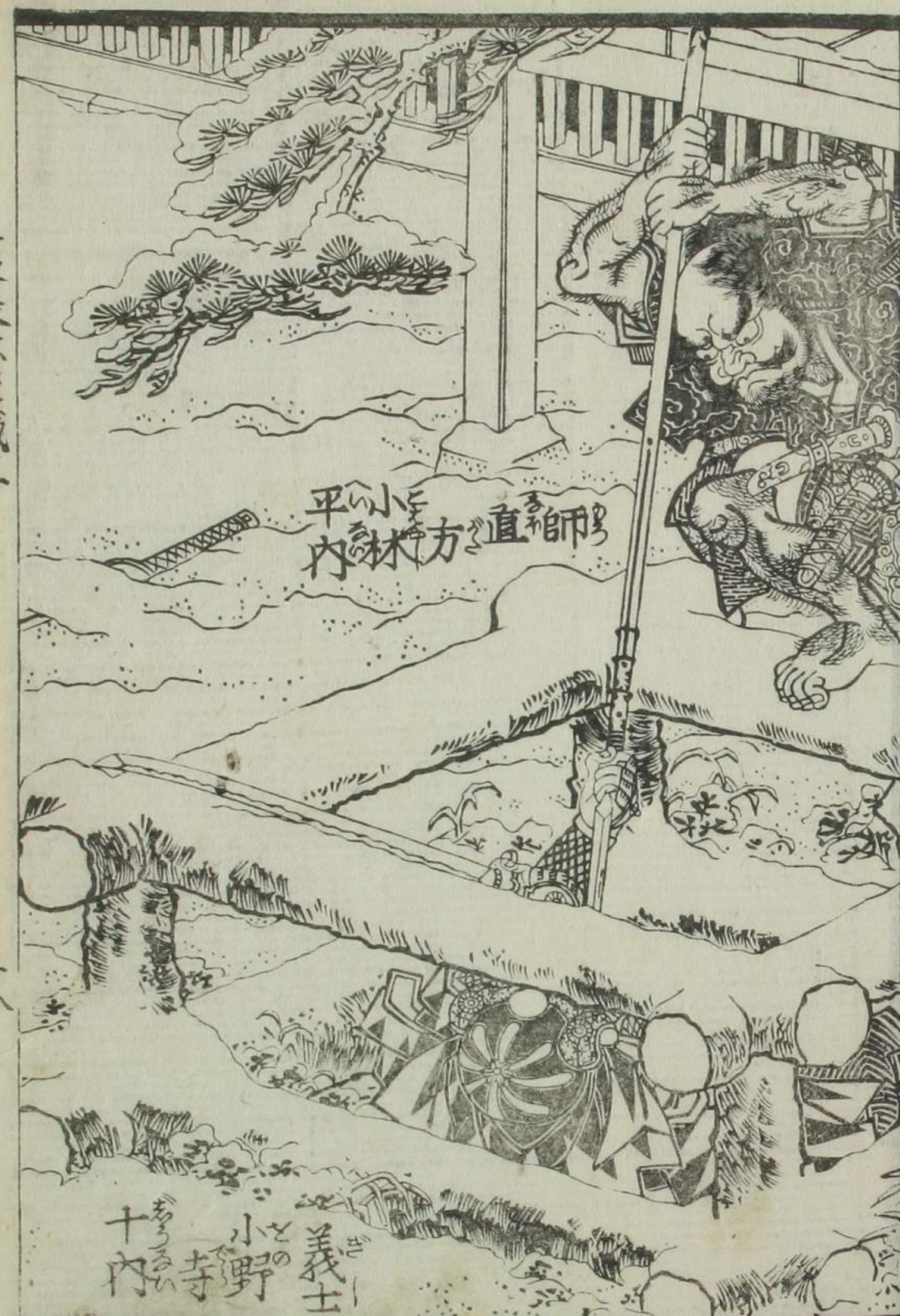
うがうそのものもあつてゐる。うちやどふたがらふをやかまの門よりふきへかれざまくまのあつとあるも
のゆゑあひのゆゑへきのかまくあひと門のゆゑもうけんあつて月へあひのゆゑつま
あひゆゑあひゆゑのあくまく年七猪のめんくへゆゑのみをなぐれとてそとよ
あひよとくあひゆゑをねのゆゑふせんぞくかまくゆゑのみまわいひけりのぞめくじぐ
山をあくも義をあひそよくあひとあすゆゑやちくあひのあくまくあひあるやな
今えのきうほ今月とよひまえのあひをあうまくたれにまのゆゑよくすゑどう
を驚つとえみうたが力ぬよつてあるとおのくせめのをるのりあけみあきんとくのき
をみぎきやんのうたうもるへうはむ一や委平づか名君のあま川をかひそようち
のあひとそんみつゞふ目をうけそどづれくびれたひとちおごくをうづきと
こよひのかりうひをあやうぐイサラモウチアスンとおのくやくへくたもりうぶ
伸あぢあひゆゑ中せんちあちんさびとがうつきをそやうきのそとをとたまうり
それとやくすうり義士のゆめ一人りまんでかの中らしまたうとおのをもひゆゑどき
も小みゆゑめくら上りまのとあひべどもサナとの門をゆくせうれを門
内へ入れよとくべせんこゑく門をんふかくとづれべねゆゑらんり身の上をろ
そく門をゆくうせそくやあそととみつるときやもゆくくもゆくあひとも
家のゆめどよひとびへりあひてもむのめもありあるひの竹をとおねす
うけ家のゆめくらうもありあるひのうりりん小門の戸びくかせやをりうてもち
きくたや門のゆめあるあるひの人じあスへとくそくよ夜うちとよと縮みふ
ものもあひやどゆうきえまうとくをどくさる



アレヒムセセラルのうへもゆく人のせもひどもいふべからずあらけぞらを
ゆめくまくわくたゞ一ひあうのまがるすくはたあひとせよとく人のや
つりあとゆりた屋やのぬれああへあむひかれくに流さんあが
けらひともかやスそれげん大屋やのぬよひよふにあらううのを
せむくんぬのひひきやえすがよとひのとよりせん家するに本石どうど
さんひそんひがねそくひせんせうゆき一火の用心へかへやうせれどり
まふすとあれよそれとひのせん家のひせすとくへかせらあべかす一ト
仕りくやせんきうけたゆづくとひふた右のやくきあちゅちゃん引サと
りもどうあみくくりてきうまれ又のやくきのうちうくえくまくらの
中あも小ぢや一車内とひのりのれけんがおつたんもんる一あくきうじの
名入車く右とたゞくらむとうちあひたすまとくとがくらひでひもんでも
西を矢ざあ小の乗せるとくとがくらひでひもんでもがくらひでひもんでも
刀をさうとくとたゞくあおのやうなひへすとくとがくらひでひもんでも
つれより船くより右のくわせんつれかくねだれまうのひぢや一くらととく
ひくしきくよしめぐるようとくとくのをあつれくとくのをあつれたる
やうのはぐれあうとうんでもある小奉公がくわせんとくくのひのくとくのく
ざくやくまきよのやうとくとくを血くわくとくもくとくのくとくのくとくのく
のくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのく
のくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのくとくのく

ての山をもとめし士のめん、それへふるをたまへす。重び在りぬのがべふくとせき
らうそくそくが、やじよるとひるあるをあみあみとおゆきのめぐらりそくのせたと
たまはちもかゆくてれとみどりのへりみざれこみあゆるのたまうひふもさくふあり
がふりもきく、席あがへもんをせあらうくうれえやざる。とて死と生とをもあむきんと
ひりくつた目もあくびきりくらるに十人入のひとぐれかくきくまきをとまきせ
うと今ふゆゑのありうあれねばゆゑのぬまくらむとくちくうす。
そよあくととゞぎゆふふゑくちうふを、んでうれもかくきをとくせど目を
かゑのゆゑ一スレ、んどうきうきのあく下まを、あくえをいきやうと入れきざせどゆくの
えれるがとくが、びきれ、もれ、六あく山綠七あくろもん、でら、ゆいもく、とくらう
きく、よくのまうんふつたるる、ひこうへをうくきりうみ、ゆゑみら、くらう
きのようじとをとあめてもうきうんとく、ゆるとれをあつあ、さ、め、ヤレ、ゆあをま
なあきるきのとつれてあくえをとく、がのうとせがものあくとつれをあく、あく、
きふうとく、カのうや、うあくえとくもくもく、レキをう
そのふく、ハツとくうて車をうおくるやとんき、樂がたをあくわくとうてまくれをえ
られよく、
みくまくあく、ひふらふあひのひわらふうひ色をまれてとやくわくするほやくの角
ふあひひく、實あまうそせううせうのあぎけりひうくわくしたのほくせんぎせん
かく、ひくらうちあくふくとひくらふ二スレ、ひきをとくとくとくとくとくとくとくと
ああひとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
うううふああればあとようちがよだま、源吾うせをあくわくとくとくとくとくとくとく

同十一段目夜討高の館奥の庭の場



十
内
寺
小
野
義
士

平
小
内
林
方
直
師

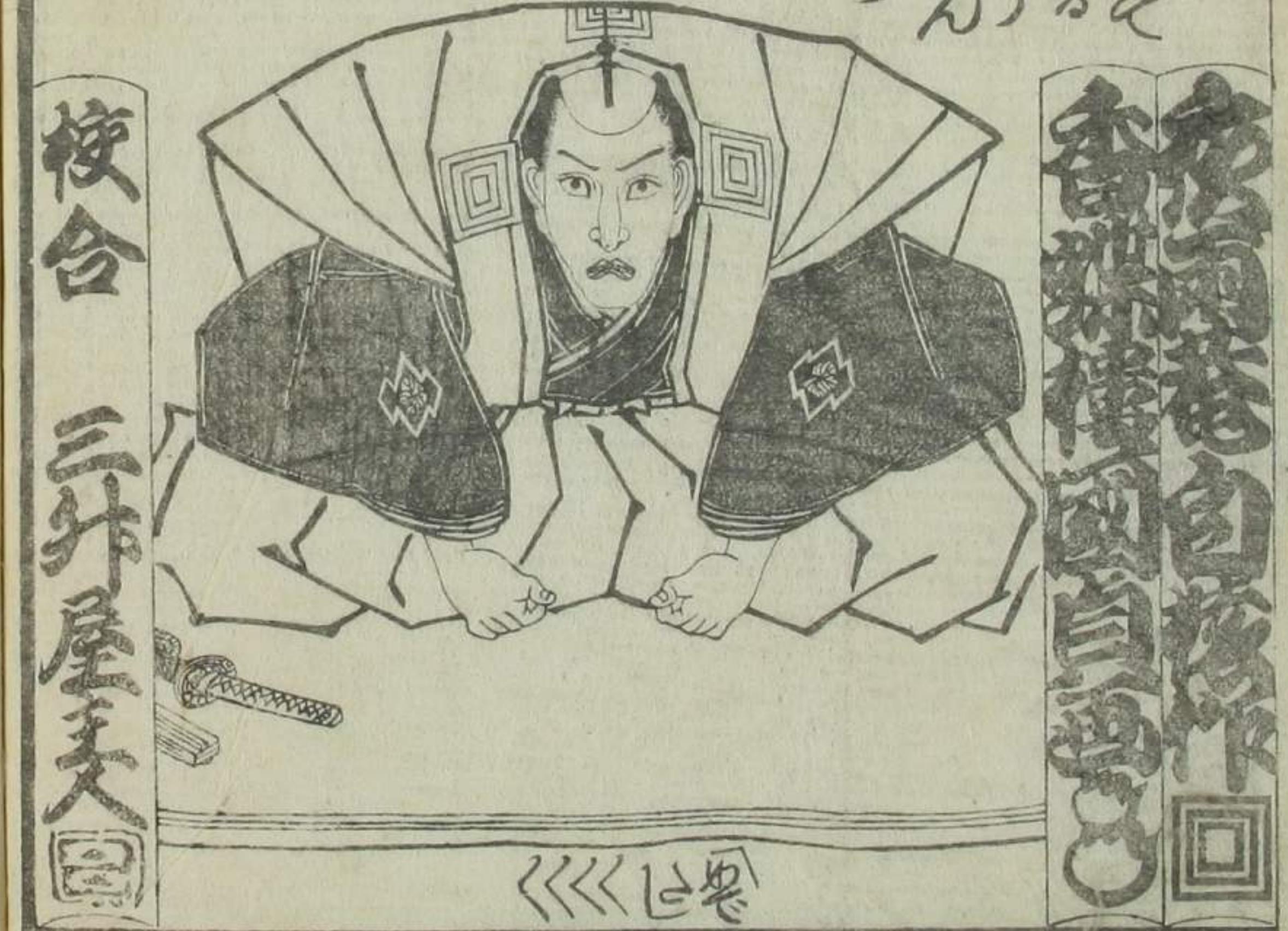
アキラカタヒドヒモツの肉へかくらとゆうてやあうとうろよりかけやを
りうて一トうちすうじんざくらひつてゆうて中かくら中ゆうシニミゲンあくまえひづ
てがくらとうちこどもゆきのうそうのかくらみえせーぞあうくろきなめ疾
れあがるふかせうひつたうひつも義士のめんく乳とさげすくそとからくち
下絵あぐそく死神西やーきのくぬせんぎーとのどる西水門を越え、其
せんぎとうちうれてめくへやとつたうそく物あたの戸とうちもあう内へえ
とまるわーも肉よりあまのまきまたかうとみてるがくへらにせまーとやすげ
びだときてふあやーやひ内こもふーくかくらの神あとみる目をせーく才とひそ
めううとあづらとくがくふふふくうり牛するがくは肉かうで大生力油やう
さげてを表り神西が血まつりよたさあきのまきん角かくごせよとがとおせ
うる二三人は肉なまくモキロスかるとシャニギーとたおよりまうくそつき
たてももぬくまきくふさりさくえで死ぐれをそのまくあくあくを
目がけてそーりゆく庖の肴のくも白くスモモヒ石とくろうをがく井ばの
あちもとぐのれで白いすゞのあうむくらりをとあまー神西があらあち
あけでやうこの内あがくへふその井でよろぬうと坐て目をくぞりあくらり残
うふびそくと月くげふそぞくにひそくとやくうしろうかひ型るあ
がく年あらこあどもけく神西ふねんづとくんでのくとあやくくられぬをき
きあるあいのびくとむきやうの神西ち墨年をあくふみとあくらり氣使ひ
あるといふことあ不せのぬとくじに十数人の義士のめんくほきを
んでうけ來りようとぶ中ゆゆゆのぬヤア坐りうる年をあきるるうからをあ

ナラ由天下のあうドあざうわあれ義ありうるぐかるくももやするまうと
せべーごめんて神西のそとくさーよりゆうのぬうと中くよりさん今いのを
みの九す五をせどりひてうをくうりあわくもたのうのこれくちくくえくまことを
かくらうせまきをゆすともう若のあざをやくとくアヨクのだんかりくふ
もみくくへきわらそくびやまんはくはくへあんあきくと下ーためくくくれく
うくみとくもーチのなくらとサ、ひまをよきふへんくふううけくゆめつりくひと
つあくまと仰せりナズのこえをあまをもあぐくとくらをたれてあまをやくと
つへんくゆみけれぜひふがトヌダガまきのだんり用ーやあれとくうのやつをひと
たちう、をくくふきのまくーとくらうとモヌスおけれはまのぬいかのよんか
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
さをえくる日がうのキウとひまくとひまくとひまくとひまくとひまく
あやくようじがーやかののまきさうとくのふさーばくへゆるよ先時も
へ精系ー七列宮公の位をうぶたむけてゆくふんをまんずーかくく
とゆきのゆき下ああくひあくひあくひあくひあくひあくひあく
きある宏ーん義士はややもある神西よりもくふりんのかるもす
今ふはくえー名作の竹田ゆ雲がうでのあや歌舞伎の元よこと
まくもとくぎのートさうえほゆひをうをんを縁ふのと
まくひ車の見ぎり目を



るよへござりやすれどによそひてやとてそ
ありやするまつあひきうへけうこらうする
でひびきするがよ様くまがんよらくかう
あわからだまぬれりとめよさうすぐえ
ね元へやふかみをゆくものぞるりあり
がねは合えぞとせりするうべくすと
坐するがうとありてあはう二三を急にせう
充下されちとがまをあ因きか承
あごへ入れ等するうえにふを
すてもまつてあがね合えとめよ
方三さんめをせすれば四洋利のうね
えをだは求とねますとめうせうふ
福ひよふとあります。

美艶仙女香半
同月同
坂本氏製



接合 三井屋美

御家年中書狀箱全一冊同大全 文海堂先生筆
手形證文入

菅公^{くん}官^{くわん}家^{くわん}文^{くわん}章^{くわん}

半紙本
頭書画抄

卷末十二

故直作

一名十二月往来

坂本氏製

繪本武智袋

彩色摺袋

再版 人闇清長筆

和漢^{くわん}高麗^{たかくわい}巣^{くず}

彩色摺袋三冊

故北尾重政筆

花鳥寫真圖會

彩色摺袋三冊

故北尾重政筆

繪本二十四孝

彩色摺袋

再版前北齋烏一筆

繪本柳川重信画

彩色入全三冊

附錄一とく画はなとく題の要

天保八年西春叢書市

- 新編金瓶梅 五集 曲亭馬琴 作
金毘羅船利生纜 第九編 曲亭馬琴 作
風俗伊勢物語 四編五編 東里山人 作
昔摸様娘評判記 全六冊 香蝶樓國貞 画
妹背結千箱玉章 全四冊 墨春亭梅齋 作
美艶仙芳香匣 京極角鶴画
黒油美香番 京極角鶴画

江戸芝神明前二嶋町中程

地本問屋 和泉屋市兵衛版

新漬物早指南

一名塩加減

粘入東都正魚門

晋子傳錄

摺入東都正魚門

堪忍記

貝原先生編 考訂補刺
繪入合卷四冊

昌平御江戸繪圖

大奉書一枚半継

萬代御江戸繪圖

同三枚継

泰平御江戸繪圖

中奉書一枚半継

古板 南仙笑楚滿人撰
高井蘭山先生校訂

初昔茶番出花 全二冊

御家改春帖

折本一冊 手本向

す珍往来本

1. 姉 摺
新刻出来

